

## 国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

## 【実践者】

授業者氏名	村吉 多賀子	学校名	沖縄県立八重山特別支援学校
教科(科目)・領域	高等部社会科、歴史総合	対象学年(人数)	高1年～高3年 (8名)Aグループ
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年 11月6日 (2/4 時間目)		

## 【実践概要】

1. 単元名(活動名): 【社会:オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史】「異文化の中で生きる」を学ぶ					
2. 実践する教科・領域 特別支援学校 (知的障害教育課程) 高等部 社会	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定) 世界と日本のつながりを歴史の中で見出し、異なる文化の中で互いに協力し、平和な世界を実現するために何ができるかについて考える。					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	移民や外国人が異文化で生活することになった背景やその中で起こった出来事について理解することができる。			
	②思考・判断・表現	南洋移民の紙芝居から考えを深め、親しんだ場所とは異なるところで生活した当時の人々の気持ちを想像し、自分の考えを表現することができる。			
	③主体的に学習に取り組む態度	学んだことを踏まえて、よりよい社会のあり方について考え、世界の国々の人々と共に生きることについて自分の出来る事を考え、表現することができる。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本授業は知的障害者教育課程の学習指導要領「社会」を基として単元を構成し、大項目「オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史」の内容を扱うものとする。単元構成としては、高等学校「歴史総合」の内容項目を参考としている。 太平洋戦争以前、沖縄は昭和恐慌から続く慢性的な恐慌と台風や干ばつに襲われ、米はおろか芋さえも口にできない状況だった。「ソテツ地獄」と呼ばれるこのような深刻な食糧不足と経済不安は、沖縄から多くの海外移民や出稼ぎ労働者を出す要因となった。その中で当時「外地」と呼ばれ、日本統治下にあった南洋群島へも多くの出稼ぎ労働者が向かった。南洋群島のひとつであるパラオには、1937年当時、日本人在留者1万1千人がいたが、そのうち4割あまりが沖縄県出身者であった。(『沖縄県史 移民』より) 多くの先人たちが、親しんだ場所から離れて異文化の中で生活することになった状況は、近年海外から日本・沖縄にきている外国人の姿と重なる。この単元学習を通して、なぜ昔、沖縄の人が海外へ移民することになったのか、どのような生活をしていたのかについて学び、境遇を想像することで、身近な外国人の生活を想像し、価値観が多様な社会にあって他者と協働することの大切さを考える機会としたい。					
【児童／生徒観】 クラスの人数は8名で軽度の知的障害を主障害とする高校1年生から3年生までの生徒たちである。特別支援学校学習指導要領知的障害教育課程においては2段階にあたるものとして単元ごとの目標を設定している。授業中の発言は活発で、社会問題にも関心が見られる。新聞スクラップを社会科の毎週の課題としており、記事についての自分の考えを対話の中で表現することもできる。文章でまとめるには時間がかかる。 近年、地元でクルーズ船の寄港や航空機の国際線離発着が再開されたことなどにより、外国人観光客に街中で多く出会うようになった。そのことを授業の中で話題にしたところ、生徒たちから排外的な発言をする場面があった。今後も生徒たちが住む地域では観光客が増えてくるだろうし、本校が「職業教育と就業体験に関する協定」を結ぶ企業においては、外国人人材を積極的に登用しており、卒業後、外国人と同僚として働くことになる生徒もいるだろう					

う。それらを踏まえれば、異文化理解や多様な他者との協働意識は大切なことと考える。本単元の学びを通して、生徒たちに異文化への寛容性や多角的な見方・考え方を身に着けてほしい。

### 【教材観】

本単元を学習するために、まず「亀おじいとパラオ」の紙芝居を紹介したい。これは授業者の祖父を題材とし史料をもとに、生成AIの助けもかりつつ作成した紙芝居で、①戦前祖父がパラオに移民したこととその背景となった沖縄の出来事②祖父のパラオでの暮らしと戦争③パラオからの引揚と戦後沖縄の状況、を柱とした物語である。紙芝居の全部において「あなたならどうするか?」と、生徒に問いかける形をとる。問うことによって祖父の人生を追体験し、自分事のできるように工夫した。

3, 4時間目では島内で働く外国人についての理解を促す。亀おじいの紙芝居を思い出しながら、異文化の中で暮らすとはどのようなものか、彼らが抱える困り感を解消するためにどのようなことができるのか、生徒と一緒に考えていきたい。

### 【指導観】

知的障害教育課程の生徒たちの特性として概念的スキルを習得する上での困難さがある。歴史分野を学ぶ上で、過去の人々の気持ちを想像させることに困難があると考え、工夫する必要があるため、紙芝居や動画教材をもって視覚的・具体的に表したい。また、自分の考えを整理しまとめる作業に時間が必要なので、紙芝居の「わたしならどうするか?」と自分の考えを表現する場面では、いくつかの選択肢から選べるように工夫した。

4時間目においては、課題解決を行うことを目指すが、外国人が暮らしやすい社会をつくることは、私たちにとっても安全・安心で住みやすい社会につながるということを伝える。


## 7. 単元計画(全4時間)




時間	ねらい	学習活動	資料など
1	【知・技】 ・海外移民や出稼ぎ労働者について知る。	・新聞記事を読む	・地元紙
2 本時	【思・判・表】 ・移民として生まれ育った場所とはちがうところで生活することになった人の気持ちを想像する。 ・自分ならどのような選択をしたかを考える。	・ニュース映像を見る ・紙芝居を見て、登場人物の気持ちを想像する。 ・紙芝居を見て、自分ならどうするかを選択する。	・ニュース映像(琉球放送) ・紙芝居「亀おじいとパラオ」
3	【知・技】 ・国内の外国人労働者の状況について学ぶ。	・新聞記事を読む。 ・重要な用語をインターネットで調べる。 ・調べた情報を他者に説明する。	・地元紙 ・インターネット
4	【主体的に学習に取り組む態度】 ・国内の外国人の生活実態を想像し、多文化共生社会を生きるものとして自分にできることを表現する。	・ロールプレイング ・模造紙マッピング	・外国人へのインタビューカード ・模造紙

## 8. 本時の展開(概略)

本時のねらい:①パラオへ行った先人の気持ちを追体験し、自分の考えで「選択」することができる。

②生まれた場所とは違う所で生活することになった人の気持ちを想像することができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	(T)2年前、私はパラオ共和国というところへいきました。パラオは日本からずっと南にある島国です。「教師海外研修」といって、先生たちが勉強するために海外へ行くプログラムがあります。その研修でパラオへ行きました。それでは、この映像を観て下さい。 ○ニュース映像を見せる。 (発問1)ニュースに出てきた「私」は何に驚いていましたか?	・健康観察、出席確認を行う  ・一部を抜粋して伝えるため、「なぜ私がパラオへ行ったのか」等前後関係の説明を行う。	ニュース動画 RBC【琉球放送】Links! 2:10～3:13(約1分間) 

	<p>・「先生のおじいさんがパラオにいた、ということ。」</p>		
<p>展開 (30分)</p>	<p>(T)では、これから私の祖父を題材にした紙芝居をみてもらいます。その中で、いくつかの質問があるので、「私だったらどうする？」と考えてみてください。</p> <p>○紙芝居「亀おじいとパラオ」</p> <p><b>p2「亀おじいとわたし」</b></p> <p>(T)2年前、たまたまパラオ共和国へ行ったときにびっくりする出来事がありました。そのお話を今日は紙芝居で紹介させてください。</p> <p>なんと私の祖父がずっと昔、そこに居たのです。沖縄から約2200Kmも離れたこの小さな島にまさか祖父が住んでいたなんて。本当におどろきました。</p> <p>(T)沖縄からパラオまで、距離は遠い？近い？</p> <p>&lt;実際の反応&gt;・遠いなあ</p> <p><b>p3「なぜ教えてくれなかった？」</b></p> <p>(発問2)「Qなぜ、おじいはパラオのことを孫の私に話してくれなかったのでしょうか？」</p> <p>(予想される回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あまり良い思い出じゃなかったから？」</li> <li>・「忘れてしまってたから」</li> <li>・「無口だったから」</li> </ul> <p>&lt;実際の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・驚かせたかったから</li> <li>・心配させたくなかったから</li> <li>・戦争があったから</li> </ul> <p><b>p5「1930年代沖縄」</b></p> <p>亀おじいが生まれたころの1930年代の沖縄。経済的にとても苦しく、「ソテツ地獄」と言われる苦しい時代でした。人々は米も芋さえも口にできず、多くの農民が野生の蘇鉄を食糧にしました。毒性を持つ蘇鉄は、調理法をあやまると死の危険性があります。それにも関わらず、人々はお腹がすいていたので、その実や幹を食べるほかないほど、飢えは深刻でした。</p> <p><b>p7「南洋への移民」</b></p> <p>(T)住人の中には、苦しさから抜け出すために海外へ移民する人、出稼ぎに行く人が多くいました。亀おじいは、当時日本の領土だった「パラオ」へ家族と向かいました。</p> <p>(発問3)「Qあなただったらどのような選択をしますか？そのままふるさとの残る、海外へ行く？」</p>	<p>・単純に紙芝居を読むのではなく、随所で、「あなただったらどうする？」を考えることができるようにする。その際に答えやすいように選択肢を提示する。</p> <p></p> <p>・答えが出てこない生徒へワークシートの選択肢を参考にするように促す。</p> <p><b>【選択肢】</b></p> <p>①あまり良い思い出ではなかったから 3</p> <p>②忘れていた</p> <p>③おじいは元々無口だったから</p> <p>・沖縄に残る選択をした場合、その後沖縄ではどのような出来事があった</p> <p></p>	<p>紙芝居 「亀おじいとパラオ」 ワークシート</p> <p>p2「亀おじいとわたし」</p> <p>p3「なぜ教えてくれなかった？」</p> <p>p5「1930年代沖縄」</p> <p></p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一緒に行く」</li> <li>・「怖いから残る」</li> <li>・「海外じゃない別の場所に引っ越す」</li> </ul> <p>&lt;実際の反応&gt; (T)なぜその選択をする？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「そのまま死ぬよりは他のところに行く」</li> <li>・「ソテツ地獄よりは・・・」</li> </ul>	<p>かを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えが出てこない生徒へワークシートの選択肢を参考に促す</li> </ul> <p><b>【選択肢】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①一緒に行く</li> <li>②怖いから残る</li> <li>③海外じゃない別の場所に引っ越す</li> </ol>	<p>p8「パラオでの生活」</p>
<p><b>p8「パラオでの生活」</b> (T)パラオでの生活はどのようなものだったでしょう。 当時パラオには1万人以上の日本人が住んでいました。その中の4千人ほどが沖縄の人だったそうです。日本人のこどもたちは「お手玉」や「ビー玉」など、日本にいる時と変わらない遊びをしていたそうですよ。学校にも通っていて、日本の教科書が使われていました。</p>		<p>p11「おじいと戦争」</p>
<p><b>p11「おじいと戦争」</b> (T)亀おじいさんが11歳の頃、日本がアメリカと戦争を始めました。当時日本の領土だったパラオにも、たくさんの日本兵がやってきました。これは、パラオ島を攻撃するアメリカ軍の様子をうつした写真です。</p>		<p>p12「戦争のころ」</p>
<p><b>p12「戦争のころ」</b> (T)戦争がはじまり、食料が足りなくなったパラオで、人々は空から爆弾が降ってくる空襲におびえながらもカタツムリやマングローブの木の実を食べたりして食いつないでいたそうです。亀おじいさんにはパラオで生まれた弟がいました。戦争のころ、弟はたった3歳。栄養失調でおなか膨れてとってもかわいそうだったそうです。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えが出てこない生徒へワークシートの選択肢を参考に促す</li> </ul> <p><b>【選択肢】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①不安だった</li> <li>②悲しかった</li> <li>③怒っていた</li> </ol>
<p>(発問4)Q弟が苦しい思いをしているのを目の当たりにして、亀おじいさんはどんな気持ちだったのだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不安だった」</li> <li>・「怒っていた」</li> </ul> <p>&lt;実際の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「悲しかった」</li> <li>・「助きたい」</li> </ul> <p><b>p14「終戦へ」</b> 戦争も終わりが近づいた頃、亀おじいさんのお父さんの亀吉さんもパラオで日本軍の兵隊となりま</p>	<p>p14「終戦へ」</p>	<p>p14「終戦へ」</p>

した。1945年8月 日本はポツダム宣言を受け入れ、無条件降伏をしました。  
日本は負けてしまいました。

**p15「引き揚げが始まる」**

(T)戦争が終わりました。日本は負けて、パラオは日本の領土ではなくなりました。亀おじいや他の沖縄の人たちは自分の生まれ育った場所に帰ることになりました。でも、中には「パラオでの生活がいい！」と、ジャングルに身を潜め、帰らないものもいました。

**(発問5) Q「あなたがパラオにいた沖縄人だったら、沖縄に帰る？それともパラオに残る？」**

- ・「故郷に帰る」 <実際の反応>5名
- ・「住み馴れた場所だから、パラオに残る」 <実際の反応>
- ・「アメリカの領土になると、何されるか分からない」

**p16「沖縄へ到着」**

(T)パラオなど南洋群島から帰ってきた人は約3万人いたそうです。亀おじいは米軍のトラックで故郷の国頭村に向かうことになりました。

**(発問6)「Q 帰って沖縄をみたとき、亀おじいはどんな気持ちになったのでしょうか？」**

- ・「悲しい」
- ・「戦争が終わってほっとした気持ち」
- ・「不安かもしれない」
- <実際の反応>
- ・「よく帰ってこられたなあ」
- ・「沖縄戦がまだ続いているのかな？」

(T)悲しいと思ったのはなぜ？  
・「沖縄も戦争だったから、やけどげになっていたんじゃないかな」  
(T)「せっかく戻ってきたふるさととは戦争で焼き焦げになってしまっていたかもね。戦争はパラオにいても沖縄にいてもどちらも人々が苦しい思いをしたことは変わらない。」

**p18「亀おじいと戦後」**

(T)亀おじいは15歳で沖縄に帰ってから、のちに警察官となり、戦後沖縄社会の安定に貢献しました。戦争が終わってからの沖縄。アメリカ軍が占領していた混乱の時代、日本復帰の時代。  
様々な出来事がありました。  
パラオで少年時代を送ったおじいは、パラオでの体験を胸に秘めながらどんな気持ちで戦後の沖縄を過ごしていったのでしょうか。  
生まれた場所から出ていって、言葉も文化も違



14

p15「引き揚げが始まる」

・答えが出てこない生徒へワークシートの選択肢を参考にするように促す

**【選択肢】**

- ①故郷に帰る
- ②パラオに残る
- ③その他



15

・答えが出てこない生徒へワークシートの選択肢を参考にするように促す

**【選択肢】**

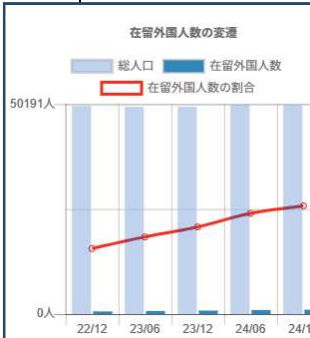
- ①悲しい
- ②うれしい
- ③怒り

・発問3で、沖縄に残る選択をした人たちはどうなったのかを生徒に想像させる。  
沖縄に残ってもパラオへ行っても戦争はどちらにとっても苦しい状況であったことを伝える。

p16「沖縄へ到着」



16

	<p>う場所で住んだ亀おじい。多くのうちなーんちゅ(沖縄人)たちが同じような経験をしました。みなさんの家族や親せきにも、そのような経験をされた方はいませんか？ 調べてみると、面白い発見があるかもしれませんよ。</p>		
<p>まとめ (10分)</p>	<p>○紙芝居が終了 (T)一人の人物が少年時代にパラオに行って沖縄に帰るまでの話でした。 (T)皆には亀おじいの気持ちを想像して「選択」してもらった。特別な誰かの人生ではなく、普通のおじいの話でした。どんなところが印象的でしたか？ ・「亀おじいがパラオに行くことになったところ」 ・「戦争でカタツムリを食べてたところ」 ・「沖縄に帰ってきたところ」 〈実際の反応〉 ・「ソテツ地獄(※沖縄の戦前)のところ」 ・「沖縄に戻ってきたとき、遠くに行って帰ってこれたのがすごい」 <b>(発問7)このグラフの水色は石垣市の人口を表しているが、青色の数は何を示しているか。</b> ・「子どもの数？」 ・「老人の数」 (T)正解は、左が石垣市に住んでいる人の数。右が石垣市に住む外国人の数。折れ線グラフをみると、年々どうなっていることがわかる？ ・「増えている」 <b>(発問8)身近で外国人を見かけたことはある？彼らについて、あなたはどう思う？</b> ・「こわい」 ・「どうしていいかわからない」 〈実際の反応〉 ・「バスの中で青い服を着た集団(技能実習生?)に会ったことがある。他の時にも会って、その時は歩道に横並びで歩いていて、自転車の邪魔になった。」 ・「こっちのルールを覚えてこいよ、って思う」 ・「アルバイト先のホテルでフィリピンの人と一緒に働いた」 ・「(就業体験先の)空港で、外国人の忘れ物を届けた」 ・「私はブラジル人、中国人と会ったことがある。」 ・「民宿に泊まっていた外国人をレンタル自転車のお店に連れて行ったけど、お店の人に断</p>	<p>・対話の中で答えを引き出す。  ・対話の中で答えを引き出す。  ・ネガティブな意見は出てくるはずだが、否定せずに自分の気持ちを表現することができるように促す。</p>	<p>ワークシート パワーポイント</p> <p>・グラフの一部(在留外国人数の変遷、在留外国人数の割合)を隠したグラフをみせる。  ・パワーポイント: 下記グラフ</p> 

	<p>られたことがある。」</p> <p>(T)なるほど、みんな色々な場所で外国人と出会っているんだね。外国人とどうやって付き合っていた方がいいのか、次回の授業でじっくり考えていきましょう。</p> <p>○ふりかえりシートの記入</p>		
--	---	--	--

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <p><b>【思・判・表】</b>①教師の発問に対し、自分の考えで「選択」することができる。(記述内容、発言聴取、行動観察)</p> <p>②生まれた場所とは違う所で生活することになった人の気持ちを想像し、自分の考えを表現することができる。(記述内容、発言聴取、行動観察)</p>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>4時間構成うち、2時間目の紙芝居作成に関して「沖縄パラオ友の会」からの資料提供をいただいた。</p> <p>4時間目の石垣島在住外国人からのインタビューに関して、石垣市役所平和協働推進課の協力を得る予定。</p>
<p>11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA 出前講座による取組。</li> <li>・本校は沖縄県「令和7年度 SDGs達成のための教育」の研究指定校となっているので、本授業をSDGs10「人や国の不平等をなくそう」達成のための学習と位置づけて、校内の公開研究授業として行う。</li> </ul>

### 【自己評価】

<p>12. 苦労した点 ※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦前～戦後にかけてのパラオにおける日本人移住者の物語を「国際理解教育」としてどう落とし込むかが難しかった。</li> <li>・紙芝居「亀おじいパラオ」の作成にあたり、自分の祖父に関することだが、ほとんど分からないことが多く、不明な部分を様々な資料を用いて物語として埋めることに苦労した。</li> </ul>
<p>13. 改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時だけで①紙芝居、②市内の外国人についてだと、内容が盛りだくさんになってしまった。今後は1時間を紙芝居「亀おじいパラオ」に注目した学習とし、一度すべてを読んだ上で再度紙芝居に戻り、「自分だったらどうする？」と追質問を行いたい。</li> <li>・ワークシートの「ふりかえり」がすべて①できた②できなかった③わからないの3択であったが、これではどの程度できたのか、出来なかったのかを細かく見取ることができなかった。</li> <li>・概念的な理解が複雑な「移民」や「外国人」について、単純化しすぎてしまった。生徒の実態に応じて個別の問いを工夫しながら正しい理解を促すにはどうすればよいかを考える必要がある。</li> <li>・次回以降、「外国人との共生」について、表面的な理解にとどめることなく、その地域における具体的な姿(国籍、文化的背景、構成)を探究的に掘り下げて深く理解できるように工夫する必要がある。</li> </ul>
<p>14. 成果が出た点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいの物語を、「紙芝居」を通して生徒たちに効果的に伝えることができた。</li> <li>・「紙芝居」の途中で、「なぜ、おじい、パラオのことを私に話してくれなかったのだろうか」「あなただったら海外に行く？故郷に残る？」「亀おじいどのような気持ちだったのだろうか」「あなただったら沖縄に帰る？パラオに残る？」といった発問を設定することで、本時のねらいを達成することができた。</li> <li>・生徒が紙芝居の物語に没頭し、追体験することができた。特に弟が栄養失調になった場面では、問いに対する発言も多く共感し自分事としてとらえることができたように思う。</li> <li>・紙芝居の中で問いを設定することで、「移民の気持ちを想像する」「自分だったらどのような選択をするか」について生徒自身が考えることができた。</li> <li>・残りの時間にフリーディスカッションの時間を設けることができた。日常において外国人と関わった経験について、7名中5名が話しをすることができた。</li> </ul>

## 15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

【ふりかえりシート】 7名出席(1名欠席)

## 1. 自分だったらどうするか?を考えることができた?

① できた(5名) ②できなかった(0名) ③わからない(2名)

## 2. 生まれた場所とは違うところで生活することになった人の気持ちを想像することができた?

① できた(6名) ②できなかった(1名) ③わからない(0名)

※「できなかった」理由:自分だったらどうするかを考えるのはできるが、相手の気持ちを考えるのは難しい。



【1週間後の授業でのふりかえり】

○前回の授業で印象に残った場面をおしえてください。(複数回答)

- ・パラオに亀おじいさんがいたこと(1名)
- ・パラオへ行く前の沖縄～ソテツ地獄(3名)
- ・パラオでの戦争で、弟が苦しい思いをしていたこと(3名)
- ・沖縄に帰ってきた時(4名)
- ・沖縄の戦後(1名)

## 16. 授業者による自由記述

2年前に教師海外研修でパラオ共和国へ赴いた際に、はじめて自分の祖父が戦前から戦後にかけてそこにいた、ということを知った。いつか教材として生徒たちにその物語を共有したいと考えていたので、今回このような形で教材化でき、公開授業を行うことができて良かった。特別ではない、普通の「おじい」である祖父でさえも、大きな歴史の中で翻弄されていた様を捉えることから、身近な出来事とダイナミックな人の移動の繋がりについて考えることが出来ればと思い、教材作成に至った。

本時の学習はそのあとに続く「多文化共生」の授業に繋げるために「生まれたところとは違う場所で生活することになった人へ共感すること」を重要視したが、生徒のふりかえりを見るとその目的は達成されたと感じている。

## 【参考資料】

- ・『沖縄県史 資料編 17(近代 5) (旧南洋群島関係資料)』(2003 沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編)
- ・拓殖大学 旧外地関係資料アーカイブ  
[https://opac.lib.takushoku-u.ac.jp/kyugaichi/htmls/pages/nyo\\_00475675.html](https://opac.lib.takushoku-u.ac.jp/kyugaichi/htmls/pages/nyo_00475675.html) (2025/08/20)
- ・RBC【琉球放送】News Links! 「肌で感じたことが大きな経験」パラオに派遣された教師たち 現地で得た教科書にはない学び」<https://www.youtube.com/watch?v=mzoEIBbUgOE> (2025/08/01)
- ・琉球歴史アーカイブス [http://rca.open.ed.jp/history/story/epoch4/sotetu\\_1.html](http://rca.open.ed.jp/history/story/epoch4/sotetu_1.html) (2025/08/20)
- ・沖縄県公文書館資料(国頭村奥間の写真、パラオ攻撃の写真(<https://www.archives.pref.okinawa.jp/>)) (2025/08/20)
- ・在パラオ日本国大使館 HP ([https://www.palau.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/11\\_000001\\_00592.html](https://www.palau.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00592.html)) (2025/08/20)
- ・国立公文書館アジア歴史資料センター HP (<https://www.jacar.go.jp/shusen80/chapter9/>) (2025/08/20)
- ・『国頭村海外移民史 資料編』(1992 国頭村役場発行) 国頭村出身外地引揚者名簿
- ・『沖縄県史ビジュアル版 14 沖縄戦』(2025/08/20)
- ・在留外国人の便利マップ <https://map.japan-workers.com/?aid=47207> (2025/08/31)

ワークシート

紙芝居

